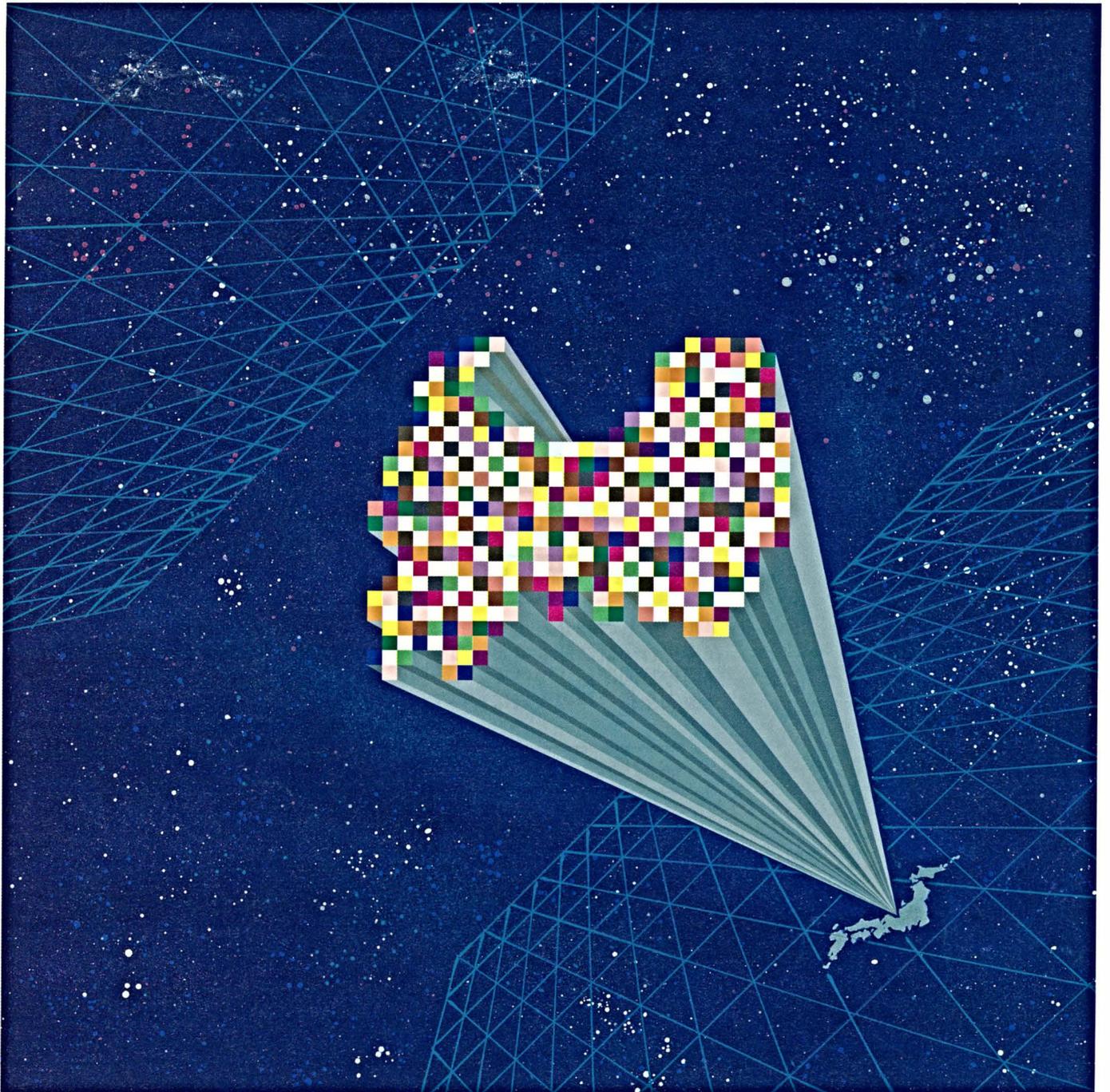


# 富山大学 No.91 学園ニュース

## 特集 「私とインターネット」



# 学園ニュース

No.91 CONTENTS

## 特集 「私とインターネット」

ホームページづくりの効用	人文学部 教授 藤井 一行 … 1
触れてみて初めて開く新世界	教育学部 教授 穴山 一 彊 … 2
インターネットをめぐる「権利」と「責任」	経済学部 教授 小倉 利 丸 … 3
e-mail から始まった僕のインターネット	理学部 助手 古田 高 士 … 4
インターネットの教育・研究利用について	工学部 助教授 伊藤 研 策 … 5
おすすめ インターネット	総合情報処理センター 文部技官 坂本 江 見 … 6

## わたしの研究室

旅先にて想う文化人類学研究室	人文学部 3年 飯田 徹 … 7
「体研」夏の恒例企画「臨海実習」のことなど	教育学研究科 2年 高本 珠 生 … 8
岩内研究室	経済学部 4年 北澤 孝 典 … 9
ウニは語る	理学部生物圏環境科学科黒田研究室ウニ代表 キヤサリ … 10
計算機工学第I講座へようこそ!!	工学研究科電子情報工学専攻 1年 齊藤 誠 … 11

## 留学生コーナー

私の生き方	経済学部 鄭 泰 永 … 12
-------	-----------------

## トピックス

生涯学習の拠点がオープン!!	生涯学習教育研究センター長 米田 政 明 … 13
富山湾海底地震計観測	理学部 教授 川崎 一 朗 … 15

## 学生部だより

アルバイトの紹介 ……	17
在来生合宿研修開催のお知らせ …	18
西門の時間閉鎖について ……	18
交通安全指導等の実施について …	18

## 保健管理センターだより

名探偵物語	保健管理センター所長 中村 剛 … 19
-------	----------------------

### 表紙の作者の紹介



教育学部中学校(美術)課程  
4年 デザイン専攻  
FOO SUAN TOON

私はマレーシアからきた留学生の  
符 伝 俊 です。  
フ サントゥン

一度美研に遊びにきて下さい!  
お待ちしております。  
よろしく!!

## ホームページづくりの効用

人文学部 教授 藤 井 一 行

はじめて internet というものにふれたとき、私はそこに無限の可能性を予感した。internet にかかわりはじめてまだ9カ月。その世界のほんの一部を垣間みたにすぎないが、わが日ロ文化関係論ゼミナールの試行錯誤的なとりくみの一端を紹介する。

internet には多くの機能があり、電子メールの効用にもはかりしれないものがあるが、ここでは私たちがもっとも重宝しているWWWのネットワークの利用に限りたい。

これはいわゆるホームページ（以下、HP）の活用ということで、よそのHPを訪問したり、自分たちのHPを訪問してもらうこと。よそのHPはいまやそれこそほとんど無限に存在し、そこから自分に必要な情報を選択的にうけとめることは容易ではない。私たちは専攻の関係でロシアのHPを訪れることが多いが、ロシアではまだinternetがあまり普及していないので入手できる情報の量や質には限界がある。しかし英語だけでなくロシア語でも開設されているロシアのHPにアクセスすることは学生にとってはロシア語の読解力を身につけるための絶好の実習である。この面での実地訓練はこの後期からの課題だ。

一方で私たちは自分たちのHPも用意した。HP作成のためのマニュアルも勉強し、必要なソフトやカメラもそろえて。HPをつくることにどんな意味があるか？

私自身は、自分たちの研究・学習の成果（過程を含めて）＝情報を世に問い、意見・批判をもとめ、新しい知見を人々の共通の財産として形成していくこと——そこに大きな意味があるように思っている。

私個人は日露文化関係にかかわるつぎのような一連の研究を<インターネット出版>と銘打って公にしている。

■ 野坂参三夫人・龍ヤソ連に亡命して銃殺さ

れた日本の渡米移民の肅清物語

■ 富山大学とイルクーツクの諸大学との交流記録

また共同研究者の仕事として非常勤講師によるつぎの労作。

■ 『屋根の上のヴァイオリン弾き』の原作の紹介（中川由美先生）

■ プレハーノフ研究大会報告（坂本博先生）  
学生たちも個々にHPをつくっている。はじめは自己紹介的なHPが多かったが、技術水準が高まるにつれて、つぎのような作品が生まれるようになった。

■ 世界の地図にみる北方領土のあつかい（日本語版とロシア語版）

■ 日本人学生の留学・異文化体験記録（日本語版とロシア語版）

■ ロシア人留学生の日本人学生論（ロシア語版）

■ 私にとっての internet

ロシア向けにわれわれのゼミを紹介するページ（英語・ロシア語版）も用意している。

HPづくりにとりくむと否応なしに、パソコン・ワープロを使わざるをえなくなり、かつ英語はもとよりロシア語の文章をキーボードから入力せざるをえなくなる。外国語能力の向上を期すならinternet活用がなによりだ。授業と関係なく自分で辞典をひもとくはじめての機会となるはず。

はじめパソコンに抵抗をおぼえた学生も、その苦労がきれいな作品（HP）として結実したりすると、internetが病みつきになるようだ。自宅にパソコンを備え、民間のproviderと契約する学生も出てきた。

披露したいことは山ほどあるが、もう紙幅がない。あとは楽しい写真や画像たっぷりのわがHP（<http://www.toyama-u.ac.jp/~fujii>）を自分の眼でどうぞ。

## 触れてみて初めて開く新世界

教育学部 教授 穴山 彊

一昨年インターネットの噂を聞き、「電子レターが来るわけじゃなし、関係ない」とうそぶいていたところ、情報の学生が試しているインターネットの通称テレビ電話 CU-SeeMe を垣間見て俄然興味が湧き、この世界に引き込まれてしまった。さらに情報の教官や学生の協力が容易に得られたこともあり、昨年9月にはサーバを立ちあげ、情報の発信基地とも言うべきホームページを直接持つこととなった。

私のページには教材や、研究に関連した事例写真や、学内の協力者達と作った入門者用の問答集や、ゼミの学生達の情報や、卒業式風景や実習風景や目に映ったよしなし事のデジタルカメラ写真や、所属学会関連の仮のホームページなどが置いてある。

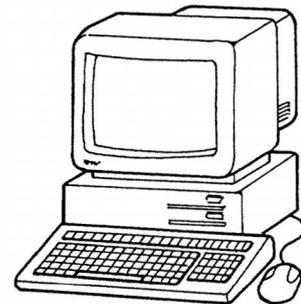
個人のホームページはテキスト・音声・絵・ムービーなどでパフォーマンスしながらひたすら客を待つ場所と考えられる。そう、ホームページは大道芸人の舞台である。「何せうぞ くすんで 一期は夢よ ただ狂へ」と過激な古人も愛唱したように（閑吟集）、人間の好ましい姿が「積極的過ぎるくらいに行動すること」にもあるとすれば、自分のページで少しぐらい自己を主張しても良いのではなかろうかと理屈を付け、また私自身結構消極的な目立ちたがり屋なので、情報ハイウェイの大道芸人たるべく趣味を総動員したページも作っている。作曲に童話に手作りのカラオケに第九練習用 MIDI ファイル。時には七五調の作品などもどさくさに紛れて置くことがある。

問題はかくも多彩？な我がページを、誰が訪れ何を見てくれるかである。幸か不幸かサーバではどのページが閲覧されたかが分かるようになっている。それを見る限り学生のページと問答集への訪問者が圧倒的に多い。訪問者が予想より少ないのは、教育学部同窓会々歌のページである\*。楽譜と歌詞とドラムス付きミディアムロックで演奏した会歌練習用のページなのに不思議である。

インターネットの利用技術は日進月歩で、ライブの音声・静止画・ビデオと留まる所を知らない。ライブの富士山に感動し、私のサーバでも今年の6月にライブの静止画を提供できるところまで漕ぎ着けた。ところがはたと困ったのが「何を提供するか」であった。夏も盛りの7月末の夕方、鉢植えの月下美人が咲き始めたのを幸い、3時間放映してみたが来訪者はただの一人であった。もったいないので別に保存したファイルからムービーを作成しホームページに載せた\*\*。インターネットという新世界で、マルチメディアを使った創造の面白さと、それらをホームページで発表するスリルに狂っている最近ではある。

\* <http://potato.edu.toyama-u.ac.jp/Songs/OthersSongs.html>

\*\* <http://potato.edu.toyama-u.ac.jp/>



## インターネットをめぐる「権利」と「責任」

経済学部 教授 小倉 利丸

インターネットが普及するにつれて、「猥褻」や「反社会的」情報など好ましくない情報発信に利用されるのではないかとの危惧の念がもたれることがよくある。日本では、個人の意志表示や表現の自由よりも組織や集団の合意を優先させる傾向があり、しかもマスコミも含めてこうした事象はセンセーショナルに論じられてしまいがちだ。

では大学の情報の処理センターがインターネットで流れる情報の是非を判断することはできるだろうか。ホームページは時々刻々と変更されうるし、世界中から配信されるネットニュースは膨大な量にのぼり、個人宛のメールの数量も郵便に比べて大きなものになりつつある。それらを逐一チェックすることはまず不可能だ。しかも、そもそも何が妥当な内容なのかといったチェックをネットワークの技術的なセンターにまかせることは不適切だと思う。

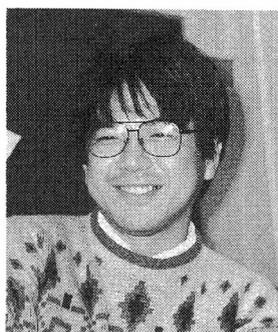
ルートと呼ばれるネットワークの管理者の場合、管理するコンピュータの他人のファイルにパスワードなしで自由にアクセスし、内容の書き換え、削除もできる。もし、内容にまで管理者が責任を負うことになると、こうしたプライバシーにふれる部分にルートが立ち入ることを強いられ、もし万が一、なにか問題を見過ごした場合には、ルートがその責任を問われてしまう可能性がある。これは、過大な責任を技術的な管理者に押しつけてしまうことになると思うのだ。

学生であれ、教官であれ、事務職員であれ、みな思想信条の自由な表現とそのための手段は保障される必要がある。原則的には違法でなければ表

現の自由は保障されるべきなのだ。しかし、違法ではないけれども、規制すべき内容がありうるというのが最近の議論でいつも論じられることだ。たとえば、ホームページで不要になった品物を販売することはいいのか、自分の信ずる宗教や政党についての主張を述べるのはいいのか、裸体の写っている写真を掲載するのはいいのか等々、様々に予想される「難問」がある。

こうした難問は、コミュニケーションの道具である以上当然抱え込むのが当たり前なのである。インターネット自身が ISOC などのユーザーによるボランティア組織によって運営されているように、これらの問題に対しては、インターネットの双方向性を十分に活用して、学生や学内のユーザーがみな対等の立場で議論できる環境を作れるのだから、ユーザー全体で議論することが可能だし必要だろう。従来の諮問委員会などでの議論の方法はこの点で、再検討する時期に来ているかもしれない。

これらの議論の前提として、私は、基本的には、情報発信の内容の責任は発信者個人が持つべきだと考える。たとえ、大学のサーバや端末を利用しているとしても、情報のコンテンツは各人が自分の責任で入力し、発信したのだからだ。ただし、こうした各自発信者の責任は、同時にネットワークを管理する大学がその構成員にたいしてその表現の自由を保障し、ユーザーとしての権利を保障するということなしには生まれ得ないものでもあることもしっかり自覚する必要があるだろう。



## e-mail から始まった僕のインターネット

理学部 助手 古田 高士

「If you have an e-mail address, we can communicate with each other in no time.」という海外の友人からの手紙，受理された論文の原稿を e-mail で送って欲しいという雑誌編集者からの連絡，周囲にちらほらと見かけ始めた e-mail をやっている先生方の話，「これはもう e-mail が出来ないようではいけない」とモデムを買って来て自宅から電話回線で学術情報センターに接続して初めてインターネットのサービスを味わったのは平成 5 年の春のことでした。e-mail を使って遙か遠い海外の人と瞬時にして連絡を取り合えた時，たとえ私費を投じて始めて本当に良かったと思いました。登録しても使わずに基本料金だけ取られていくんじゃないか，本当に研究に役立てられるのかなど今迄二の足を踏んでいたのが大変愚かに思えました。現在でも国内外の数学者とのコミュニケーションを取るのに，e-mail を最も頻繁に利用しています。また我々の研究分野ではプレプリントや研究集会その他についての情報がメーリングリストで配送されており，労力・コストの軽減，情報の加工などに大変役立っています。各研究分野の専門的知識等の情報交換にはメーリングリストがよく使われているようです。

最近の少し大きな研究集会では会場にインターネットにつながったコンピュータが置いてあり，そこから自分のメールサーバーに telnet で入って e-mail を読んだり，持って来るのを忘れた自

分の論文の原稿やデータ等を（たとえ海外からでも）ftp で取り寄せたりすることが出来ます。またインターネット上には沢山の P D S が公開されており，数学の論文清書システムで一番よく使われている T<sub>E</sub>X や科研費マクロという科研費の申請書類の作成を支援する T<sub>E</sub>X 用マクロなど研究上必要なソフトウェアを，archie で検索し，anonymous ftp サーバー等から手に入れることが出来ます。P D S のインストールや種々の情報はネットニュース上の詳しい人からの教授により至極助かったことがあります。

WWW では沢山のプレプリントを集めたサーバーや数学者が開設したホームページから，プレプリントの Postscript ファイルや講義録のソースファイル等を見つけて取って来る事が出来，研究に大変役立っています。自分でも拙いホームページを作っていますが，WWW のアクセスログを見ると全世界からどういう伝を辿ってかあんな所を見に来ているのです。研究集会では顔見知り会って「ホームページを見ましたよ」などと言われる度に恥ずかしく思うばかりですが，こういった所からも交流が生まれて来るのが非常に嬉しく思われました。自分が知り得たたいしたことがない情報でも公開することで人に役立つかも知れないと言いつけて，日々急激に進歩し続けている技術を採用して華やかなホームページの遙か後を辿り乍らデータを更新している今日です。

## インターネットの教育・研究利用について

工学部 助教授 伊藤 研 策

私の主なインターネット利用法は電子メールの送受やホームページによる情報の取得・提供等があげられます。電子メールを利用するメリットは、手紙と違ってすぐに相手に届くこと、また電話のように相手の仕事を中断しなくて済むことなどがあげられます。つまり、電話の迅速性と手紙の奥ゆかしさを兼ね備えているのです。最近では、学会の参加申し込みや論文の投稿などにも利用しています。

私がよく閲覧するホームページには速報性のある情報を提供するものが多く、例えば新聞各社のホームページやコンピューター雑誌のホームページに掲載されている最新情報にはよく目を通しています。Nature (<http://www.americannature.com/>) および Science (<http://sciencemag.aaas.org/science/>) という著名な学術雑誌のホームページでは、各論文の題や抄録が雑誌の出版と同時に掲載されるため、図書館に雑誌が並ぶ前に内容をチェックすることができます。さらに、Journal of Physical Chemistry (<http://acsinfo.acs.org/plweb/jrpublic/jpchax/jpchax.html>) のページでは、印刷イメージそのままの情報を手に入れることができます。これらのホームページは将来有料化される可能性があります。自分の机の上で最新の情報を見ることができるという環境は、一度手にすると手放せないほど便利なものです。

インターネットによる情報の提供に関しては大変お粗末な状態で、今年の4月になってようやくホームページを公開したところです。現在は学科

のホームページ上で研究室の活動や研究内容を紹介している程度ですが、今後、講義資料や講義内容に関する質疑応答集、最新の研究成果等を公開する予定です (<http://www.toyama-u.ac.jp/~itoh/indexJP.html>)

富大インターネット事情について気になるところは、学生がインターネットを利用する環境がまだ整っていないということです。各学部の端末室に設置してある端末が古いとか台数が少ないという理由以外に、学生一人一人がホームページを自由に公開するための基盤が整備されていないからです。学生の情報発信について最も否定的な意見は、ホームページ上で他人を誹謗中傷したり公序良俗に反する情報を提供するようなことがあると社会問題にまで発展しかねないので、大学として責任を負いかねるというものです。実際に情報公開に伴うトラブルの例が新聞・雑誌などに掲載されていますが、それでも一部の大学では既に個人や部活・サークルのホームページを公開しています。現在は世界中で情報公開のルールづくりをしている段階にあるので多少の問題が発生するのは当然のことと受け止めて、富山大学でも学生が自由にかつ責任を持って情報発信できる環境を早急に整備すべきだと思います。一部の教職員が一方的にホームページ公開基準を作成し学生がそれを遵守するという旧態依然の手法をとるのではなく、学生自ら情報を発信して互いに問題点を指摘し合うことで積極的にルールづくりに参加する方法が、インターネット利用の活性化にとって最適な方法であると考えています。

## おすすめ インターネット

総合情報処理センター 文部技官 坂本江見

先日、高岡で“ミッション・インポッシブル”という映画を見てきました。

「トム・クルーズ、かっこいい〜！」と感動する一方で、インターネットにアクセスするシーンが多数出てくると、仕事柄つい、どれどれと見入ってしまいます。部屋のパソコンから見知らぬ相手に電子メールを送ったり、眼鏡やタイピンに潜ませたカメラやマイクから現場の状況を探ったり、携帯電話にノートパソコンを接続してデータを転送したりと、盛りだくさんな内容でした。

ネットワークを利用するシーンが当り前のように扱われ、私たちが違和感なく理解できるようになったのは、ここ2・3年ぐらい前からはではないでしょうか。

それまで、世の中にインターネットが存在しなかったわけではないのですが、ほんの一部の研究者達のためだけのシステムでした。

そのうち、多数の有志が、ホームページという絵や音を含んだ小さな単位の情報を地球上に隙間なく広がっている網の目の上に散らばせていき、世界単位の大きなデータベースを作り上げていきました。これがWWW（World Wide Web）です。この台頭により、インターネットは一気に私

たちの身近なものになりました。

ホームページを見ていろいろな知識を身につけることの他にも、インターネットにはたくさんの使い方があります。最近では、レポートを電子メールで受け付ける先生方も増えてきました。電子メールはその名の通り、ネットワークを使った郵便です。町の郵便ポストに投函する手紙と違って、電子メールはほんの数秒で、月の裏側にまで届けることができます。

テレビ会議システムも、話題のシステムのひとつです。大学の講義を自宅で受ける日がくるのも、そう遠い未来ではないかもしれません。

富山大学でも、今年度から全学生さん方にインターネットを利用できる、ユーザーIDが発行されました。学内から、もしくは自宅から、世界に広がるインターネットの網の目を手繰り寄せる切符を手に入れられたわけですが、皆さんはもう、この世界を覗いてみたことがありますか。

コンピューターは、今や計算するだけの道具ではなく、他人とのコミュニケーションの手段としての地位を確立しています。

総合情報処理センターでは、皆さんがこの世界へ踏み込むための準備をしてお待ちしています。今すぐにも思い切って、インターネットの波に飛び込んでみてください。



## わたしの研究室

### 旅先にて想う文化人類学研究室

「暑い！何なんだ、この暑さは」と腹を立てても、ここは人文学部棟4F西の端にあって西日のきつく、机が熱くなっている文化人類学研究室ではない。では僕が今どこにいるかという、ただいま日時は8月12日AM11:50、岐阜県西部にある蛭ヶ野高原スキー場にいるのだ。実は、名古屋の実家に帰省するためにR156を自転車で走っているところ。昨日の朝に富山を出発して、明日の夜に名古屋へ到着する予定なのだが、無事帰れるのだろうか。ここ、さすがに「高原」というだけあって木陰に入れば涼しい風が吹き抜けていく。そよかせ吹くたび、何だか得した気分になってしまう。やはり4F蒸風呂研究室とは大違いだ。ペンを休めてふと辺りを見渡せば、遠足らしき小学生たちがとところ狭しとはしゃぎまわっている。「彼らもいい夏過ごしてるなあ」

ところでうちの文化人類学研究室の構成はというと、アフリカを専門に調査されている2人の先生（赤阪教授・竹内助教授）、院生2人と学部生が30人の計34名。このうち男子学生は9名。学生のほとんどが女性という何とも男性には素晴らしく恵まれた喜ばしい！環境である。「いいでしょ、理系の学生さん方」

この研究室では3年生になると実習として全員で富山県下の祭や生活などについて実地調査をしている。今年是新湊市の放生津八幡宮で9月30日から行われる「秋期例大祭 新湊曳山祭」を調べることになった。そこで僕はその調査の報告会代わりとして、月に1度は夕食会を開いている。僕がご飯（前菜からデザートまで）を作ってみんなで食べるのだ。3年生は10人いるのだが、男は僕1人。当然、見渡す限りみな女性。このとき飲むお酒はおいしいったらありゃしない。また女性陣の酒癖が悪くないのもうれしい。後、僕は趣味でサイクリングやトレッキング、最近ではカヌーをやっていて、その体験記を書いて研究室の人たちに読んでもらっている。これも好評のようである。

最後にこの研究室の方針は「自由放任」だそうで、それは卒論にも反映されている。たとえば去年の卒論には、公衆トイレのあり方や、富山の蒲鉾産産を題材にしたものがあった。こういうものでも文化人類学になるのだ。確かに各自やりたいことをやっている。「やりたいこと何でも自由にやりたい！」と思ったらやっぱ文化人類学研究室でしょ。これで紹介になったかなあ。さあ、行こうか。



## わたしの研究室

### 「体研」夏の恒例企画「臨海実習」のことなど

教育学部保健体育研究室 大学院教育学研究科2年

高本珠生 丸山順子

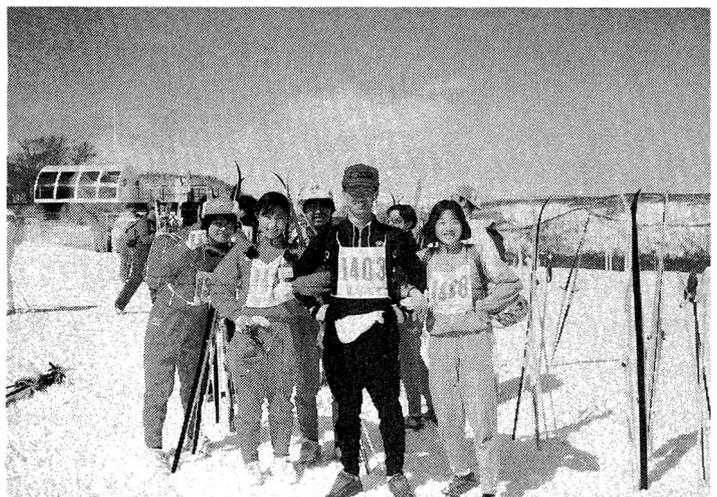
暑い夏がやってきました。待ちに待った臨海実習の季節です。光輝く太陽の下で私たちは男女仲良くおいしいものを作り青い海と一体になって盛夏の数日を楽しみます。

でもそれは幻想，求め得ぬ期待。私たち「体研」（保健体育研究室）の臨海実習は別名「果てしなき遠泳実習」なのです。荒海になぶられ一日なんと6時間！食事も海で済ます，とても過酷なサバイバルな自分との戦いです。長時間海につかるので，体温は下がり，体力は消耗されます。特に男子は脂肪が少ないので身体が冷えやすい。ワセリンを塗り，体温が外に出るのを防ぎます。実習期間は常にベストの状態を保たなくてははいけません。体力・精神力ぎりぎりのところで自分が試されます。こんな過酷な実習を私たちはグループ皆で協力しあい，励ましあって耐え抜き，泳ぎ抜き，思い出深いものにしていきます。

私たちはこの実習に至るまで，ずいぶん前から臨海における野外活動の基礎的な知識・技術を身につけます。食事・会計（予算）・衛生・そして応急処置・救助法など。これらは実習を通して生きた知識として体得されるのです。また実習を成功させるため，綿密に計画を立て，みんなで協力して準備を着実に進めていく。全体の企画の中で個々の役割を背負うそれぞれの取り組みは真剣そのものです。

おもいきり何かをしたいと思う，そんなあなた。「体研」企画の実習に参加お待ちしております。今回の夏の実習のほか冬にはスキー，来年は登山の実習もあります。辛いけど楽しいこと保証します。

——今回は季節柄，このような話題になりましたが，日頃の授業もとても魅力があります。これは先生方が12色のクレープのように豊かな個性をもっていて，独自の研究を意欲的に開拓していらっしゃるからでしょう。保健・体育はとても広い分野に分かれていて一つ一つが面白い。自分の健康や体力の向上に関心のない人はいないはず。きっと皆さんもどれか一つ「これは興味がある」と感じるものがあるでしょう。教育学部第3棟に私たちはいます。今時「個性を抑えろ」と言いたくなるくらいの個性派ぞろい。明るく健康でユーモラスな私たちを観察してみたいあなたも，ちょっと覗いてみて下さい。きっとはまってしまうでしょう。



## わたしの研究室

### 岩内研究室

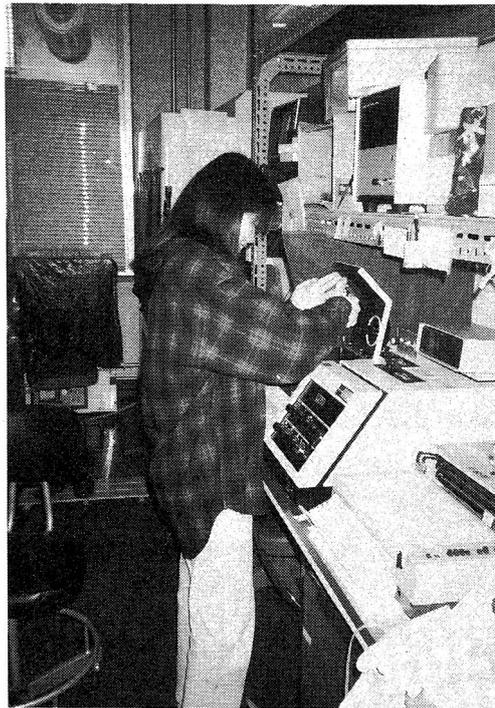
僕達岩内ゼミ生が、自分達のゼミを紹介するときは、「国際経営」についてよりも、終始岩内先生の話で終わってしまう。先生は、決して一言では言い表せない、話題豊富な先生です。それは、研究室ひとつ取ってもそうです。経済学部の新校舎も新しくなり、研究室も6階に引っ越しとなりましたが、岩内助教授研究室は、他の研究室とは一風異なっています。香ばしいコーヒーの香りと、にぎやかな笑い声、一見おしゃれな喫茶店と錯覚してしまいそうな雰囲気に包まれています。ソファやテーブルも、何カ月も前からパンフレットを集めておられ、繊細な先生の性格がうかがえます。そうして完成をむかえた研究室は、だんらんの場として、我々もコーヒーをごちそうになったり、授業についての質問など、気軽に先生と接することができます。また、学年や、昼間・夜間に関係なく、学生同志の交流も盛んで、恒例のゼミコンや、温泉、スキーなど、みんな大変充実した大学生活をおくっています。県外出身者の多い岩内ゼミの学生にとっては、このような大学を離れての活動も、ゼミの魅力のひとつです。

ここまてを讀まれて、「なんだ、岩内ゼミは遊んでばかりじゃないか」と思われるかもしれませんが、決してそんなことはありません。岩内ゼミでは、自由な雰囲気の中で、遊ぶときは存分に遊び、また、学ぶときは、集中して学ぶ、ときには遊びながら学ぶこともできる、すべて学生の自主性に任されているのです。学生の方も、高校までのやらされる勉強ではなく、みんな自主的に学んでいるので、生き生きとした態度でゼミに参加しています。テーマは国際経営ですが、とりわけ東南アジアに目をむけて、多国籍企業の現地での活動状況などを学んでいます。ゼミ自体も2・3年合同で行われることもあり、発表者への意見・質問などのやりとりも、活発です。また、演習室を離れても、空き時間や、食事の時などに、積極的に先生などに質問し、知識を身につけています。ですから我々岩内ゼミの学生はとてゝ有意義な時間の過ごし方を知っており、それぞれにとって一生忘れることのできない学生生活になることでしょう。



## わたしの研究室

### ウニは語る



ハア—イ！ 私、キャサリン。西海岸生まれのウニなの。数年前から黒田研にいるから、そんじょそこらの学生よりもオ・ト・ナ。みんな私の手足になって働いてくれるわ。毎朝私の顔色を伺いにきて、水槽の清掃をしてくれるの。私の一番高級な水槽の他に、風呂おけを改造した一般ウニ用水槽には季節によって違う種類のウニが連れて来られて住んでいるわ。私の学生たちが潜って採ってくることもあるのよ。えっ、何でウニを採ってくるのか？もちろんウニ丼や寿司のネタにしようとか、貧乏な学生がどこかで叩き売りしよう

とかってんじゃないわよ。まだまだ甘いわね。ウニ卵の受精の初期過程の解明っていう大きなテーマがあって、それに向かって日々ウニが産んだ卵を使って実験に励んでいるというわけ。受精膜が上がったって一つの事象に至るまで目に見えないいろんな情報が伝達されているの。それを追求しているらしいわ。ま、受け売りなんだけどね。ここにいるとあきないの。毎日の実験結果に一喜一憂しているヒトを見るのは楽しいし、それに世界の研究者たちが、それぞれ独自の方法でそれを解明しようとしのぎを削っていて、序々に真理が明らかになっていく、その緊張感はたまらないわ。ここにはその他にもテーマがあって、一つには小胞体によるカルシウムイオンの取り込み・遊離・蓄積の解析というのがあるの。これは細胞よりさらに小さいレベルの実験でかなりおもしろい結果がでてきているらしいわ。もう一つには、環境問題と結び付くようなテーマで、重金属の取り込み・蓄積やその影響を調べるといものなの。これはアフリカツメガエル腎由来培養細胞を使っているの。

ゴチャゴチャしゃべっていたら誰かきたみたい。あ、あの赤いエプロンをしてかなづちを持ったダルマ、(コホン、)もといヒトが黒田英世教授。アイデア豊富、オシャレで、ユーモアのあるヒトよ。後ろからくる対照的体格のヒトが黒田律先生。几帳面でいてサバサバした性格、廊下まで響きわたる笑い声をたどっていけば会えるはずよ。こんなふたりをてこずらせる学部生二人と院生三人で黒田研は構成されているの。あ、こっちにきたわ。見つかりとまずいのでこの辺で。

理学部生物圏環境科学科 黒田研究室ウニ代表

キャサリン

## わたしの研究室

### 計算機工学第I講座へようこそ!!

工学研究科  
電子情報工学専攻1年

齊藤 誠

こんにちは、計算機工学第I講座です。当研究室では、コンピュータに人間の知的機能を代行させるにはどうすればよいか?という視点に立っているようなアルゴリズムの研究をおこなっています。主な研究課題は、文書画像解析に関する研究、情景中の移動物体の観測、カラー画像からの文字列抽出法の研究、文字認識に関する研究、数式画像からの数式構造の構築に関する研究、シーケンス制御用言語の開発、多カテゴリ認識の理論の研究などです。学生はこの課題に関するどれか1つを研究していくわけです。詳しく知りたい方は <http://tateyama.comp.toyama-u.ac.jp/index-j.html> までどうぞ。

ゼミでは、研究分野のプログラミング言語でもあり、昨年頃から急激に注目されているインターネット、その可能性をさらに高めると言われている「Java 言語」について勉強しています。内容は、テキストに沿って割り当てられた部分を4年生がまとめて報告し、その後全体で疑問点・問題点などを報告者に質問、報告者がそれについて解説するといったものです。このゼミの成果は当講座のホームページを見てもらえばわかると思います。

ここまでは、研究内容やゼミなど堅苦しい話ばかりでしたが、ここからは講座の裏側?を紹介したいと思います。

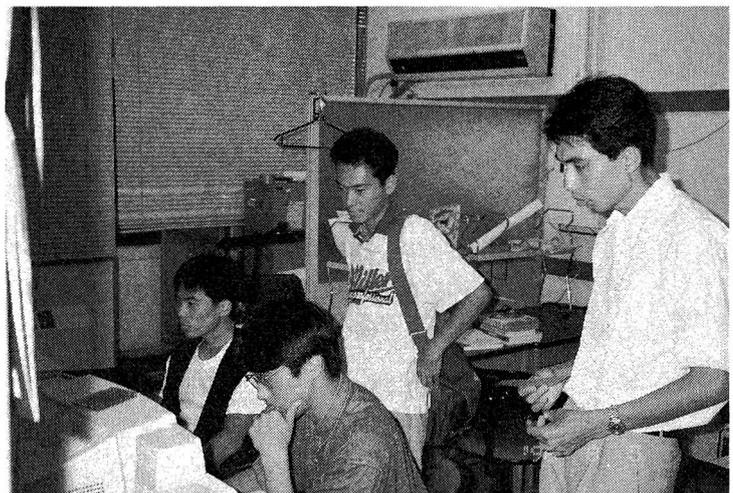
まず、当研究室ではテニス・スキーは必修になります。たとえやったことの無い人でもこの講座にいただけで自然と身につきます。というのは冗談で夏と冬の講座旅行には欠かせないものであり、先生の指導によってみるみる上達していくこと間違いなし!!

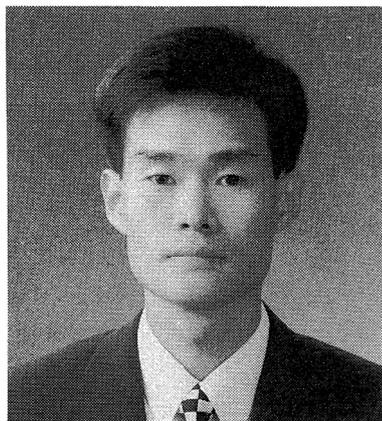
それと何かある度に飲み会があるようです。別に無理にやってるわけじゃないけれど...

その他いろいろ書きたいことは山ほど有るのですがこのページには収まりきれないのでここまでにさせていただきます。

というわけで、もし興味を持った人がいればぜひ遊びに来て下さい。一癖も二癖もある学生が歓迎いたします。なお、下記のアドレスで当講座宛てに電子メールを送ることもできます。

E-mail:maruyama@comp.toyama-u.ac.jp





## 私の生き方

経済学部

鄭 泰 永 (韓国)  
チョン ティー ヨン

人生は自分自身を愛することから始まる。自分に対する愛とは何だろう？ 自分自身の存在価値を自覚して、自尊心を持つことである。人類歴史が始まって以来、自分と同じ人間は存在しなかったし、未来にも存在しないだろう。自分は他に何も比べるものがない存在なのであり、この世にたった一人しかいない特別な人間であることをいつも念頭に置いておくことであり、「神は決していないものをおつくりにならない」という言葉を信じることである。

そんなに貴重な人生を無駄にすることは神と自分自身に対して罪を犯すことと同じであるだろう。では、一度だけの人生をどのように送ったらよいのだろうか。重要なのは自分の行きたいところを知ることである。どういう人生を送りたいかを認識したうえ、人生の大きな目標を定めることが必要である。

人間は大きな目的を持ってこそ、大きくなれるのであるから、自分がなれる限りの最高の人間になるのだと決心することである。人生は水に浮かぶいかだのようなもの、絶えず、權を動かさないと、岩に乗りあげてしまう。人生に常なるものは変化だけであって、そういう意味で目標は終着点ではなく、さらに大きな目標のための踏み台に過ぎないのである。

ここで肝心なことは実践に根ざした考え方であって、私はできると考える積極的な考え方が自分の人生をよりよい方向に導いてくれる筈だと信じることである。

何もせずにうまくいくよりは大きな目的に挑戦して失敗するほうがよいのである。失敗することは何か挑戦したことを現わす偉大な行動であって、いくつかは数知れない失敗のおかげにより、成功出来るのであるから、何度も何度も間違っても自分が自分を心から誉めるまで我慢して頑張ろう。いついつまでも心に青春の炎を燃やそう。

### ♡♡♡ 私の好きな詩句 ♡♡♡

青春は 人生のある期間ではなく、  
 心の持ちかたを言う。  
 年を重ねただけで 人は老いない、  
 理想を失うとき 初めて老いる。  
 歳月は皮膚に しわを増すが、  
 熱情を失えば 心はしほむ。  
 ——青春の詩の中で——

一度だけの人生、この世に一人しかいない自分自身に対する自覚、自尊心を持って、自分なりの目標を定めて、積極的な心構えで、実践を通じて新しい自分、そして素敵な自分に、生まれ変われるように、ためらいなく、思い切っ  
 て今から始めようネ。

## 生涯学習の 拠点がオープン!!

生涯学習教育研究センター長 米田 政 明



▲ 看板を掲げる小黒学長と米田センター長

本学に「生涯学習教育研究センター」が設置されました。これは、大学の地域貢献の重要性が高まる中で、本学が全学的合意のもとに3年前から準備をしていた共同利用施設です。同様のセンターが国立大学に順次設置されており、本学のセンターは14番目のセンターです。

大学を卒業したら勉強は終わりではなく、生涯にわたって仕事のことやいろいろなことに関心を持って学習する機運が高まっています。ただ残念なことに、今の日本ではそのような学習希望者のニーズに応える体制が整っているとは言えません。例えば富山県には県民カレッジ、富山市には市民大学があり、また民間のカルチャースクールもあって、それぞれ多様な学習機会を提供していますが、十分に体系化されたものとは言えません。

言うまでもなく、大学は、(1)研究と(2)教育を使命としています。この場合の教育は、学生に対する教育を意味しています。しかし、地域から見た

ときに、「閉じた大学」、換言すれば中で何をやっているのかよくわからない大学であってはなりません。すなわち、研究と教育の成果を地域に還元し、自治体や民間では十分にカバーできない高度で体系化された学習機会を提供するなど、地域における生涯学習の指導的役割を担うことが時代の要請になっています。これが、「開かれた大学」の考え方であり、大学は、(3)地域貢献という第三の使命を持っていると言えます。

本学は、これまでも、公開講座、リカレントコース、あるいは夢大学 in TOYAMA など、教職員の多大な努力により種々の地域貢献を行ってきました。今後は、「生涯学習教育研究センター」が学内にあっては推進・調整機関、学外から見たときは窓口として、大学の第三の使命が果たせるよう努力していくこととなります。全学教職員の皆様のご協力と学生の皆様のご理解をいただきますよう、どうぞよろしくお願い致します。

前置きが長くなりましたが、以下に、生涯学習教育研究センターの概要を記します。なお、インターネットにホームページを掲げ、継続的に情報発信しますので、是非ご覧ください。また、ご意見などもメールでお寄せください。

◇名称：富山大学生涯学習教育研究センター

◇設置期日：平成8年5月11日

◇設置場所：教養教育棟1階

◇スタッフ：

センター長：米田政明工学部教授（併任）

専任教員：大石昂教授（副センター長）

助教授または講師（採用予定）

事務担当：庶務部企画室

◇事業内容：

◎調査・研究

○生涯学習の基盤整備に関する基礎的調査・研究

○自己教育力の保持に関する調査・研究

○生涯学習及び大学開放に関する資料の収集・提供

◎学習機会提供

○公開講座

○リカレントコース

○生涯学習指導者の養成

○大学開放事業

◎相談・広報

○生涯学習及び学術一般に関する相談

○生涯学習に関する情報の収集・提供

ここで、自己教育力というのは、自分から自発的・積極的に学習する意欲を指します。それを生涯にわたって保持すること及びその素養を学生時代に身につけることが肝要とされています。

さて、設置されたばかりで、具体的な活動はこれからですが、全学から選出された委員から成る「運営委員会」で議論しながら、上に掲げた事業を展開していく予定です。

特に、情報の収集と提供はすべての事業の基礎となります。そのためのアンケートなどお願いすることもあろうかと思えます。そのことも含めまして、改めて全学教職員及び学生の皆様のご協力とご理解をお願いします。



▲ 公開講座「女性学・男性学」の受講風景

# 富山湾海底地震計観測

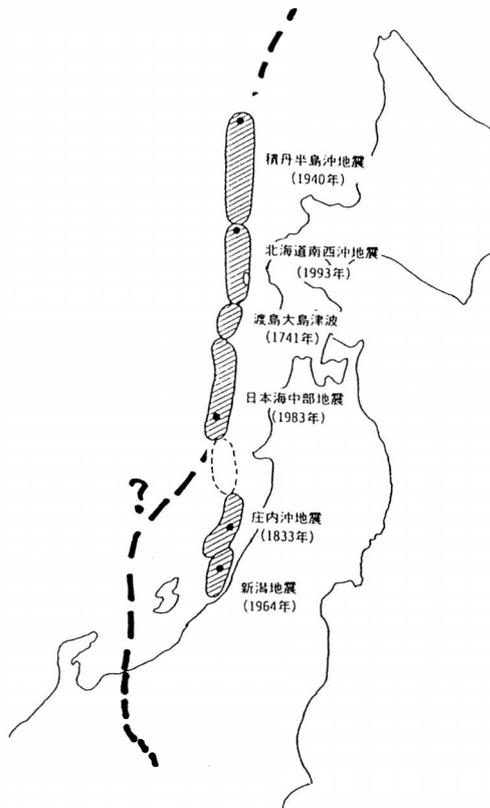
理学部教授 川崎 一朗

## 「日本海東縁サブダクション説」

1983年5月、秋田沖でM（マグニチュード）7.7日本海中部地震が発生、波高10mに達する大津波が青森県と秋田県の沿岸部を襲い、100名の死者を出した。

実は、この地震の少し前、筑波大学の小林洋二博士によって、新学説「日本海東縁サブダクション説」が提起され、賛否両論が巻き起こっていた。「日本海東縁サブダクション説」とは、ユーラシア・プレート上の日本海の海底が、北アメリカプレートに属する東北日本の下に「subduction（沈み込み）」しているのではないかという新学説である。「日本海東縁」とは「日本海の東のへり」、つまり東北日本の日本海沿岸である。

この説によると、第1図のように、プレート境界は、間宮海峡から、北海道と東北の西方沖（日本海東縁）を通り、富山湾から糸魚川-静岡構造



第1図 日本海東縁のプレート境界で発生した大地震。  
大竹（1993）に加筆。

線に抜けるということになる。「もしこの新学説が正しければ、このプレート境界に沿って巨大海底地震がいくつも起こるはずだ」という議論をしているところに、本当に秋田沖で海底巨大地震が起こってしまったのである。このため、「日本海東縁サブダクション説」は一挙に専門家の圧倒的支持を集めるようになった。自分の新学説が劇的に証明されるような機会を持った研究者は幸せと言えるだろう。

この説をいっそう裏付けるように、1993年7月、M7.8北海道南西沖地震が起こり、波高30mもの大津波が奥尻島を襲い、死者・行方不明230名を出したのも記憶に新しい。

## 富山湾ではどうなのか？

次は何処なのであろうか？ そのうち富山湾でも海底巨大地震が発生するのだろうか？

それも重要だが、そもそも、なぜ飛騨山脈は高く、富山湾は深いのだろうか？ たった30kmの距離で5kmに及ぶ高度差があるような場所は世界でも希である。何故だろうか？

この問題を解くヒントが得られないかと、北大理学部の島村教授のグループと、2年計画で富山湾で海底地震計観測をすることになった。観測には、滑川の県水産試験場の立山丸156トンの御協力を頂いた。

昨年の観測期間は、9月25日-27日の設置航海、11月22日-23日回収航海の2ヶ月、今年は7月27日-30日設置航海、8月30日-31日回収航海の1ヶ月であった。

今年は、7月29日の朝9時30分、立山丸は滑川漁港を出港した。私は、修士1年の野徹雄君、北大の塩原肇助手とともに船に乗り込んだ。私にとっては初めての航海であった。立山丸はジグザグに航路を取って地震計を設置しながら、滑川、氷見沖、珠洲沖、佐渡沖、直江津沖、糸魚川沖と大きく富山湾を右回りに一周した。

2日目の夕方、直江津から能登半島の先端に向

かって進み、富山湾のド真ん中に達したころ、真っ赤な夕日が能登半島に沈もうとしていた。素晴らしい眺めであった。私の長年の夢がついになんげられた一瞬であった。

## 海底地震計

この航海では、8台の海底地震計を、能登半島から佐渡ヶ島沖までの富山湾一帯の1000m以深の深海底に設置した。設置と言っても、船から海底地震計をそっと海面に降ろし、ケーブルを離すだけである。

海底地震計は、直径約40cmのガラス球に、地震計、テープレコーダー、水晶時計、電池、水平位置を知るためのジンバルが詰め込まれたシステムである。それを、黄色いプラスチックのハード・ケースで覆っている。これだけで重量は約40kg。

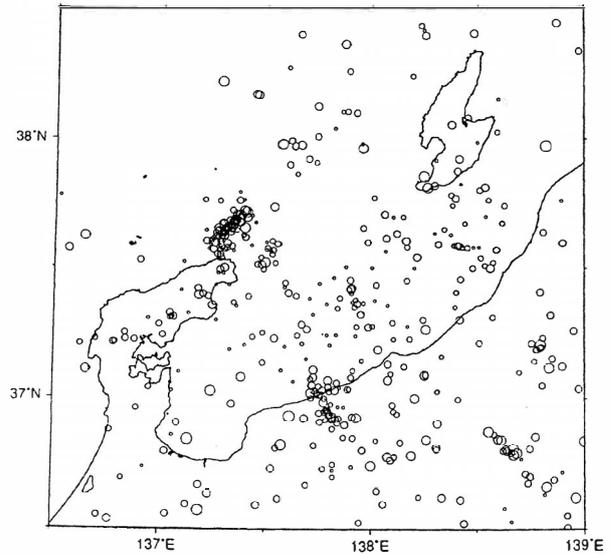
プラスチックの下側に、4本の鉄パイプを井型に組み合わせた、重さ約40kgのバラスト（重り）が付いている。そのため、海面にそっと降ろすだけで、地震計はそのままの姿勢で深海底まで沈んで行く。

回収は、8月30日から31日の航海で行った。本体とバラストは、2箇所の狭い面積でハンダで接合させている。船で海底地震計の直上に行き、船上から超音波で指令を送り、海底地震計の内部から電流を流してハンダを溶かす。バラストを落とすと、地震計本体は自己浮力で上昇してくる。それを船で探すのである。地震計には、夜間の探索用にフラッシャーが、昼間の探索用にラジオビーコンが付けられている。

島村教授は私の兄弟子である。1970年代のはじめ頃、2人の恩師である浅田敏先生（東大名誉教授）は、世界で初めて本格的な海底での地震観測を行おうとしていた。当時、島村さんは助手として浅田先生を助けて四苦八苦していた。この間の様子は、3人の共著「サイレント・アースクエイク」（東大出版会）に詳しい。

## 富山湾の微小地震分布

今年の観測の結果はまだでていない。昨年の観測では、第2図のように、富山湾の地下で、非常



第2図 1995年海底地震計観測による富山湾の微小地震分布

に多くの微小地震が起こっていることが分かった。マグニチュードは1から大きくても3程度である。陸上の観測網のデータでは富山湾の微小地震は極めて少なく見えたが、実際は予想を超える数多くの微小地震が起こっていた。

小さな地震が起こったからといってそれがどうしたと思う人もいるかもしれない。しかし、その事実自体が、次の2つの意味で重要なのである。

1つは、その事実が、「富山湾の地下深部で、現在も地殻変動が進行している」ことを証明しているからである。

2つめだが、地震は統計的には割合規則正しい起こり方をする。たとえば、M7の地震が1つ起これば、M6の地震は10起こり、M5の地震は100起こるといふようにである。したがって、小さい地震がいくつも起こっていると言うことは、いつか大地震が起こることを意味しており、微小地震の数が多ければ多いだけ、大地震の確率も大きい。

2年の観測で、「富山湾でも海底巨大大地震が発生するのか」にたいするヒントらしきものが見えてきた。海底地震計観測も含めた多くの状況証拠からは、富山湾でも1000年に1度の頻度で海底大地震が繰り返し発生してきた可能性がある。大事なものは、結論を急ぐことではなく、今後も観測と研究の緊張感を持続して行くことであろう。

# 学生部たより

## アルバイトの紹介

学生部入口の掲示板に求人票が掲示されていますので、希望するアルバイトがあれば、厚生課まで申し出て下さい。

### ○ 一般業種

希望する求人票の掲示番号を窓口にて申し出て、申込書に所定の事項を記入することによりあっせんを受けます。

あっせんを受けた後は、速やかに求人先へ電話連絡等を行い、指示を受けて就労して下さい。

### ○ 家庭教師

窓口での求職の方法は一般業種と同じですが、毎

週火曜日と金曜日に抽選を行い、紹介者を決定しています。

なお、就労にあたっては、次の点に注意して下さい。

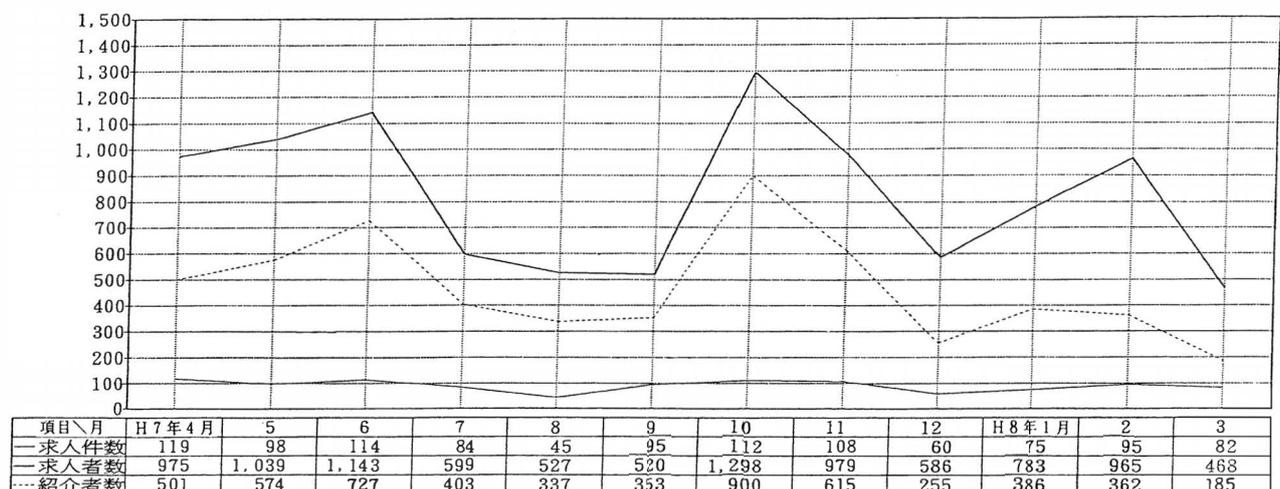
- ① 都合により就労できないときは、求人先へ連絡すると共に、厚生課で申込み取消手続きを行って下さい。
- ② 求人先でトラブルが生じたときは、自分だけで処理せず、まず求人先の責任者とよく相談の上、適切に対処すると共に、必ず、厚生課へ連絡して下さい。
- ③ 就労にあたっては、学生としての自覚をもってあたり、社会から信頼を受けるよう真剣に取り組んで下さい。

職種別アルバイトのあっせん状況及び賃金

平成7年4月～平成8年3月

項目 職種	求人件数	求人者数	紹介者数	具 体 例	賃 金 (円)
家庭教師	87	87	86	家庭教師	時給 小学生の場合 1,600 中学生の場合 1,750 高校生の場合 1,900
学習塾講師	39	179	116	塾の講師	時給 800～3,700
事務	99	1,968	1,421	一般事務,宛名書き,校正,電話の対応,文献整理	日給 4,800～9,000
調査	25	331	250	交通量調査,世論調査,客層調査,地温調査	日給 5,200～12,000
重労働	305	2,691	1,657	搬入,搬出,配達,清掃,引越し,洗車,荷造	日給 5,200～17,000
軽労働・軽作業	128	1,197	581	文書の封入,軽度の包装,箱詰検品,測量,駐車場整理,歯科助手,電子部品組立	日給 5,040～11,000
特殊技能	30	101	50	コンピューターのオペレーター,デモ演奏,翻訳,パソコン入力	日給 5,000～10,400
販売店員	157	883	284	マネキン,レジ,ガソリンの給油	日給 5,040～12,000
その他	217	2,445	1,153	受付,デッサンモデル,イベントの手伝い,みこしひき,プールの監視補助	日給 4,900～12,800
合計	1,087	9,882	5,598		

月別求人件数・求人者数・紹介者数



## 私もスキーにつれてって!!

毎年恒例のスキー講習会（在来生合宿研修）が来年も1月上旬に、あのスキーのメッカ、志賀高原で行われます。レベルに合わせて班分けし、指導教官の分かりやすいレッスンでレベルアップはまちがいありません。スキーをしたことのない初心者の方も、上級者でさらに技術を磨きたい方も存分に楽しんでいただきたいと思います。アフタースキーには、参加者同士の親睦を深める楽しい企画も用意しています。費用も4泊5日にしては非常に安くなっています。お友達と誘い合っは是非是非参加して下さい。

### ◎実施要項

1. 期 日 平成9年1月7日(火)～1月11日(土)  
4泊5日
2. 場 所 志賀高原ブナ平スキー場
3. 費 用 約33,000円（この他にリフト代が別途必要となります。）
4. 募集総数 約70名
5. 申 込 先 学館2F 体育会室  
又は学生部学生係まで
6. 締め切り 定員に達しだい
7. 日 程  
1月7日(火) 開講式、班編成、オリエンテーション  
8日(水)・9日(木) 班別スキー講習、分科会  
10日(金) 班別スキー講習、親睦会  
11日(土) まとめ、閉講式

※ スキー板、ストック、スキーケースは、学生部に無料で貸し出します。スキーブーツ、ウェア等は各自で用意して下さい。  
質問等ございましたら、お気軽に体育会室又は学生部学生係まで



## 西門の時間閉鎖に

### ついて

構内交通対策委員会では、交通事故の防止や教育・研究のための環境保持について鋭意検討し対策を講じているところですが、このたび、入構車両等の交通量の増に伴う交通事故防止等の観点から、西門を下記のとおり時間閉鎖することとなりましたのでお知らせいたします。

記

1. 西門時間閉鎖開始日  
平成8年11月1日（金）
2. 西門開閉時間帯

区 分	開門時間	閉門時間
平 日	8:00～10:00 16:00～22:00	10:00～16:00 22:00～翌8:00
休日（土、日、祝日等）	———	終 日

## 交通安全指導等の

### 実施について

平成8年11月1日から警備員が構内巡回による交通安全指導及び取締りを下記のとおり実施することとなりましたのでお知らせいたします。

記

1. 交通安全指導及び取締り内容  
次の(1)～(3)の構内交通規制違反について指導取締りを行います。  
(1) 駐（停）車違反  
(2) 無許可による入構  
(3) 入構許可証の偽造等
2. 交通規制違反の指導等の方法  
構内交通規制違反車両には次のような処置を施します。  
(1) 注意書または警告書の糊付け  
(2) 数回の注意、警告にもかかわらず違反した場合は、タイヤロックの取付けを行うこともある。

# 保健管理センターだより

## 名探偵物語

保健管理センター所長 中村 剛

テーベ市は疫病の流行、みぞうの凶作におそわれました。家畜は繁殖をやめ、人間の女も子を生まなくなるしまつです。王様のエディプスは臣下をデルポイにつかわして、この災いの原因についてアポロンの神託をもとめました。ソフォクレス作の悲劇『エディプス王』は、臣下が神託をもってくる直前の場面から幕があきます。

神託の答えはこうでした。災いの原因は、前王ライオスを殺した犯人が罰せられずにテーベにいる、この犯人をわりだして国外追放にすれば災いはやむだろう、と。エディプス王はさっそく推理を開始しますが、その結果はなんと、自分自身が真犯人だというものでした。真相を知ったエディプスはみずから両目をえぐりぬきます。

エディプスの行なった真相究明のプロセスを、時間の流れを逆転させたかたちで要約しますと、つぎのようになります。

王位を篡奪されたテーベのライオスは、ペロポネソスのペロプス王のもとに亡命し、王の手厚い庇護をうける。ところがペロプスの宮廷に厄介になっている間に、ライオスはペロプスの王子で絶世の美男子であったクリュシッポスを恋するあまり、彼を誘拐のうえ死にいたらしめた。余談ではあるが、これが人の世における、男性のホモのはじまりといわれている。怒り心頭に発したペロプス王は、将来ライオスが男子をもうければ、かならずその子によって殺されるようにという呪いをかけた。

時はめぐり、テーベの王位を継いだライオスは、イオカステを娶ったが、アポロンの神託によって自分の王子に命を奪われると宣告されていた。そこで、生まれた男児の両方の足のかかとを黄金のピンで刺し貫き、羊飼いに命じてキタイロンの山中に捨てた。だが、情け深い羊飼いは、この赤子の命をたすけ、隣国のコリント王に献上した。コリントの王

は、この子の足が後遺症のために腫れていたので、「腫れ・足」すなわち「エディ・プス」と名づけて養子にした。

立派な若者になったエディプスは、ある時、「けっして生れ故郷に行ってはならぬ。もし行けば父を殺し、母と結婚することになるだろう」というアポロンの神託をうけた。エディプスは、自分の故郷がコリントだと信じていたので、宮廷には帰らず、テーベにむかった。その途中、山中で向こうからやってきた老人の「道をあけろ」という、横柄な態度に激怒したエディプスは、老人を家来もろとも殺してしまった。

実はこの老人はライオスで、テーベの人々を苦しめていたスフィンクスについてアポロンの神託をうけようと、デルポイにむかう途中だった。スフィンクスは、上半身は女子の姿、下半身は翼をもった獅子の形をした怪物で、テーベ郊外の丘の上において通る人に謎をかけ、解けぬ者を殺すことにしていた。謎というのは、「一つの声をもちながら、四本足、二本足、三本足になるのはなにか」というもので、だれにも解けない。そこでテーベでは、スフィンクスを退治した者をイオカステと結婚させて、急死したライオスの後継者にする、という布告が出されていた。

こんなときにテーベにやってきたエディプスは、「答えは人間である。人間は、赤子のときは四本足で這って歩き、成長すると二本足で歩き、老人になると杖を三本目の足とするから」とみごとに謎を解いた。すると、スフィンクスは海に身を投じて死に、テーベには平和がよみがえった。

エディプスは布告通り、イオカステと結婚してテーベの王位についた。この自分の実母によって、男児二人、女児二人をもうけ、救国の名君ともてはやされたエディプスの栄光



◆◆◆◆◆ 学園ニュース編集委員 ◆◆◆◆◆

学生部長 浜谷正人  
人文学部 高安和子  
〃 中村靖子  
教育学部 呉羽長  
〃 原田嘉昭

経済学部 林部 實 (コーディネータ)  
〃 林 健治 (コーディネータ)  
理学部 川崎 一朗  
〃 小松 美英子  
工学部 小原 治樹  
〃 小野 慎

